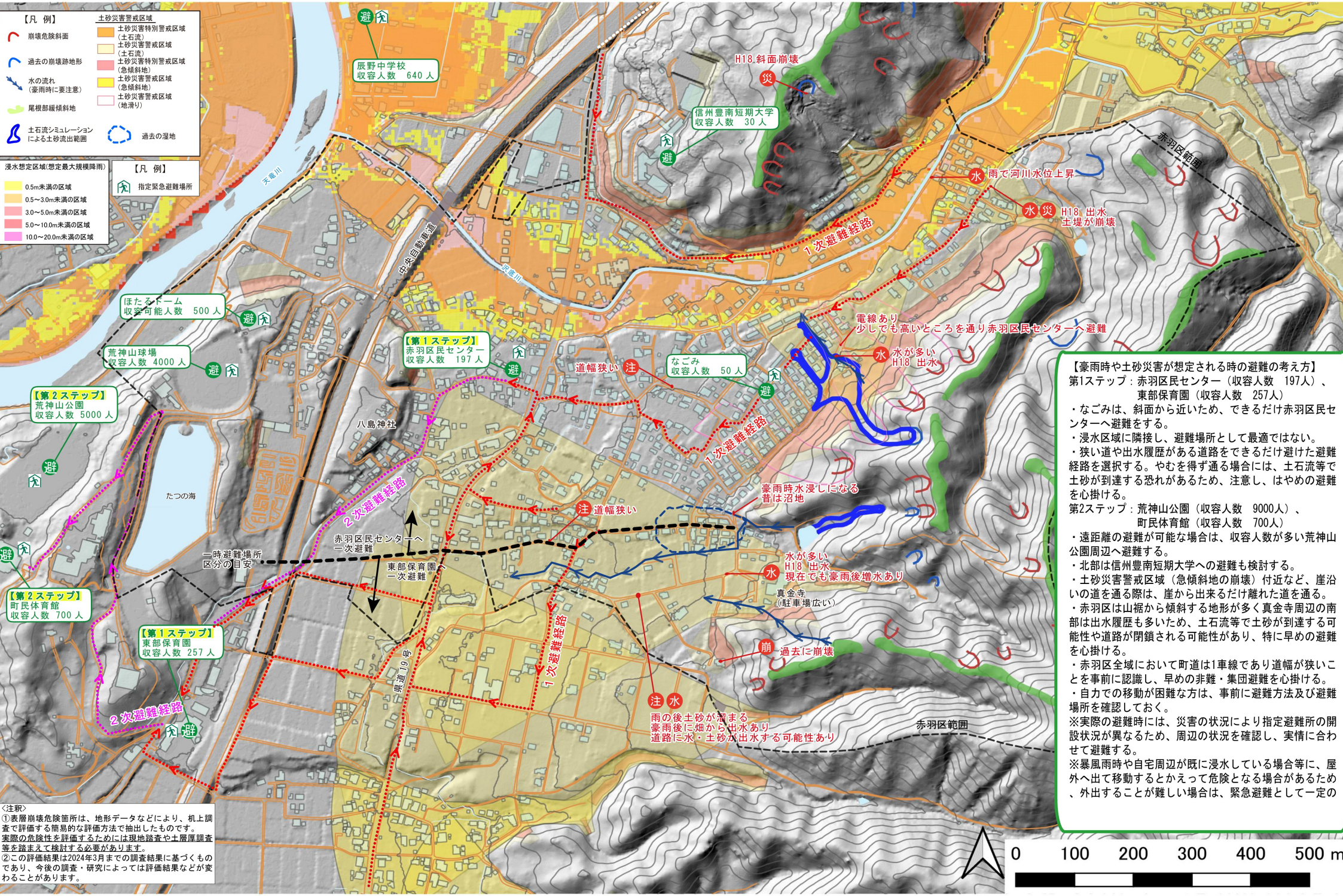

【豪雨時や土砂災害が想定される時の避難の考え方】

第1ステップ：赤羽区民センター（収容人数 197人）、
東部保育園（収容人数 257人）

・なごみは、斜面から近いため、できるだけ赤羽区民センターへ避難をする。
・浸水区域に隣接し、避難場所として最適ではない。
・狭い道や出水履歴がある道路をできるだけ避けた避難経路を選択する。やむを得ず通る場合には、土石流等で土砂が到達する恐れがあるため、注意し、はやめの避難を心掛ける。

第2ステップ：荒神山公園（収容人数 9000人）、
町民体育館（収容人数 700人）

・遠距離の避難が可能な場合は、収容人数が多い荒神山公園周辺へ避難する。
・北部は信州豊南短期大学への避難も検討する。
・土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）付近など、崖沿いの道を通る際は、崖から出来るだけ離れた道を通る。
・赤羽区は山裾から傾斜する地形が多く真金寺周辺の南部は出水履歴も多いため、土石流等で土砂が到達する可能性や道路が閉鎖される可能性があり、特に早めの避難を心掛ける。
・赤羽区全域において町道は1車線であり道幅が狭いことを事前に認識し、早めの非難・集団避難を心掛ける。
・自力での移動が困難な方は、事前に避難方法及び避難場所を確認しておく。

※実際の避難時には、災害の状況により指定避難所の開設状況が異なるため、周辺の状況を確認し、実情に合わせて避難する。
※暴風雨時や自宅周辺が既に浸水している場合等に、屋外へ出て移動するとかえって危険となる場合があるため、外出することが難しい場合は、緊急避難として一定の

<注釈>
①表層崩壊危険箇所は、地形データなどにより、机上調査で評価する簡易的な評価方法で抽出したものです。
実際の危険性を評価するためには現地踏査や土層厚調査等を踏まえて検討する必要があります。
②この評価結果は2024年3月までの調査結果に基づくものであり、今後の調査・研究によっては評価結果などが変わることがあります。